

ヨセフ④ 復活を望み見て

□ヨセフの信仰の手本

信仰によって、ヨセフは臨終のときに、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骸について指示を与えました。(ヘブル 11:22) ヨセフは何を信じていたのか？

□ヨセフ①「奴隷そして囚人に」、②「囚人から宰相に」、③「復活信仰の継承」

1. 奴隷そして囚人に

- (1) 奴隷に売られる・・・ヨセフは、ヤコブの12人の息子たちのひとり、11番目の息子。父ヤコブはヨセフを愛したので、兄たちはヨセフを憎んだ。ヨセフは、父や兄たちが自分にひれ伏す夢を見た。その夢の内容を兄たちに話したことがきっかけとなって、兄たちに殺されそうになる。死は免れたが、奴隷に売り飛ばされてしまった。17歳
- (2) エジプトの高官の家にて・・・ヨセフは、エジプトの高官の家の奴隷となったが、「成功する者」となった。高官の妻から言い寄られ続けたが拒んだために、濡れ衣を着せられて監獄へ。
- (3) 監獄にて・・・監獄でいっしょになった囚人の夢を、ヨセフは解き明かした。その後で、その囚人は赦されて釈放され、王の献酌官長の職務に戻った。

2. 囚人から宰相に

- (1) それから2年後、王が夢を見たときに解き明かす者がなく、王が悩んでいたときに、献酌官長がヨセフを王に推薦した。
- (2) 王の前に呼び出されたヨセフは、王の夢を解き明かし、その対策を進言した。王はヨセフにその対策を実行する全権を付与し、エジプトで王に次ぐ第二の地位を与えた。今で言えば、宰相、総理大臣のような地位。30歳。

3. 復活信仰の継承

- (1) 兄たちとの再会、そして家族のエジプト移住・・・カナンの地が飢饉に見舞われたとき、兄たちは、ヨセフが宰相になっているとも知らずに、食糧を買いにエジプトへ来た。紆余曲折を経て、ヤコブとその家族はヨセフを頼ってエジプトに移住した。ヤコブは130歳、ヨセフは40歳。
- (2) ヤコブの願い・・・ヤコブは、自分が死んだら、エジプトから運び出し先祖の墓に葬ってくれ、とヨセフに頼んだ。ヨセフがそのことを誓うと、ヤコブは寝床の枕もとでひれ伏した。
- (3) ヨセフへの祝福・・・ヤコブは、ヨセフの二人の子を自分の養子とすることで、ヨセフを祝福した。このとき、ヤコブは自分が復活して約束の地のの上に立つ日のことを預言した。
アブラハムとイサクの復活信仰は、確かにヤコブにも引き継がれていた。
ヤコブは、その信仰をわが子ヨセフの前で表明した、と言えよう。

□本日の内容 復活を望み見て

1. ヤコブは、12人の息子たち一人ひとりについて預言した（創世記49章1節～28節）

(1) その中で、特にメシアと関係するのは、四男のユダについて。ユダ族から王が立つこと、そしてメシアがその家系から登場することが語られた。49章10節

【原文直訳】笏（しゃく）はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。それは、支配権を本来持つ者が来て、国々の民が彼に従うまでである。

(2) 預言の内容は、2つ

① **王権はユダ族に**・・・「しゃく」「統治者の杖」、いずれも王権を意味する。将来、イスラエル民族全体を統治する王がユダ族から立つという預言である。この預言のとおり、約850年後にユダ族のダビデが王となった。

② **王権がユダ族に、と言えるのはメシアが来るまで**・・・「支配権を本来持つ者」とは、メシアを指す。言い換えれば、メシアが来たら、ユダ族から王権が離れてしまう、となる。これは、どういう意味か？

(3) この意味は長らく不明であったが、紀元70年のエルサレム陥落・神殿崩壊によってイスラエル民族の戸籍が失われたことにより、次のとおり明らかとなった。

① ダビデからおよそ1千年後、ユダ族ダビデの家系からイエスが登場した。

② イスラエルの指導者たちはイエスをメシアとは認めず、紀元30年にイエスを十字架にかけた。イエスは死んで葬られ、三日目によみがえった。

③ 紀元70年、ローマとの戦役により、エルサレムは陥落し、神殿は破壊された。そのとき、神殿に保管されていたイスラエル民族の部族ごとの戸籍は、神殿焼失とともに失われた。その後、世代を経るうちに、レビ族を除いて、イスラエルの人々は自分がどの部族に属するのか、わからなくなった。

④ 現在に至るまで、イスラエル民族はメシアの到来を待っている。しかし、今もし、誰かが自分をメシアだと名乗っても、自分がユダ族であることを証明することはできない。ヤコブのこの預言によれば、メシアは紀元70年より前に来ていたはずだと、わかる。

2. ヤコブの最後のことばと死（創世記49章29～33節）

ヤコブの最後のことばは、「カナンの地の先祖たちの墓に自分を葬ってくれ」であった。このことは、すでにヨセフに誓わせていたが、ここでは息子たち全員に命じた。ヤコブは、147歳で死んだ。

3. 葬儀と葬り（創世記50章1～14節）

ヨセフと兄弟たちは、エジプト軍の護衛を伴い、ヤコブの遺骸をカナンの地に運び、
【アブラハムの妻サラ、アブラハム、イサクの妻リベカ、イサク、ヤコブの妻レア】

が葬られていた墓に、ヤコブの遺骸を葬った。そして、ヨセフと兄弟たちは、エジプトに戻った。ヨセフ 57 歳。

4. 兄たちの恐れ、ヨセフの応答（創世記 50 章 15～21 節）

- (1) 兄たちは、父ヤコブが死んだので、ヨセフから報復されるのでは、と恐れた。
- (2) 兄たちはヨセフのもとに使いの者を送って、赦しを求めた。ヨセフは兄たちの伝言を聞いて泣いた。
- (3) 兄たちは使いの者からの報告を聞いて、ヨセフのところに直接やって来て、ヨセフの前にひれ伏して言った。「ご覧ください。私たちはあなたの奴隷です。」
- (4) ヨセフは兄たちを安心させ、優しく語りかけた（19～21 節）

「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりになることができるでしょうか。あなたがたは私に悪をはかりましたが、神はそれを、良いことのためのはからいとしてくださいました。それはきょうのように、多くの人が生かされるためだったのです。ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたも、あなたがたの子どもたちも養いましょう。」

5. ヨセフの死（創世記 50 章 22～26 節）

- (1) 創 50：22～23 ヨセフは 110 歳まで生きた。ヨセフはエフライムの子孫を三代まで見た。マナセの子マキルの子どもたちも生まれて、ヨセフの膝に抱かれた。
- (2) ヨセフの臨終のとき、兄弟たちへのことば

創 50：24～25 「私は間もなく死にます。しかし、神は必ずあなたがたを顧みて、あなたがたをこの地から、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。」 「神は必ずあなたがたを顧みてくださいます。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上ってください。」

これは、ヨセフの臨終のときからは 275 年前に曾祖父アブラハムに告げられた「解放の預言」（創 15：13～16）が前提にある。その成就を信じ、そして、復活を信じる信仰表明である。

創 15：13～16（一部を略）・・・あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。・・・四代目の者たちがここに帰って来る。・・・

- (3) ヨセフの死 創 50：26 ヨセフは 110 歳で死んだ。彼らはヨセフをエジプトでミイラにし、棺（ひつぎ）に納めた。

□創世記は、ヨセフが死んで棺に納められたという記事で終わりますが、これは悲しい結末でしょうか、それとも希望のある結末でしょうか？